# 市民サロン

このページは市民の皆さんが作るページです。短歌、俳句、川柳などの文芸作品やどんなことでも結構ですので皆さんのご意見をお気軽にお寄せください。
締めぎりは毎月10日です。
あて先は南国市企画課市民サロン係（〒783南国市大埔甲2301）です。

## バカヤロウーッ

古谷栄幸（植田）

ハスや野鳥がすばらしい石土池、その石土池にたくさんのゴミが捨てられているようです。池のまわりを掃除した十市小の五年生のみなさんから、次のような手紙が届きました。

私たち五年生は石土池についていろいろと調べ、石土池のおかげで洪水から守られていることや、ハウス園芸ことって、とても大事な池だということを知りました。その石土池にたくさんのゴミが捨てられているのです。それで、私たちは少しでもきれいにしたいと思い、池のまわりのゴミ拾いをすることにしました。

市役所からいただいた五十枚のゴミ袋は、二十八人の私たちには多すぎると思いました。ところが、袋はあっというまにいっぱいになってしまったのです。ゴミを集める場所も増やしました。

ゴミのほとんどは、植えこみのロや直がぼうぼうのところなどにあり、たいへん取りにくかったです。それに、植えこみの木がのびていて、取れないゴミもありました。くっつき虫もいっぱいあって、服や軍手にささっていたかったです。

一月には十市小のマラソン大会があります。きれいな石土池のまわりを走りたいので、全校のみんなに呼びかけて、また石土池のまわりを掃除したいと思います。そのときにはゴミをすぐ取りに来てください。ゴミをそのままにしておいたら、マナーの悪い人たちが、そこへいっしょにゴミを捨てていきます。

私たちも、石土池にゴミを捨てないように気をつけたいし、きれいにしていきたいと思います。

手紙をくれた（右から）
篇永ひろみちゃん
利岡はるかちゃん
近藤あさみちゃん
平賀やえちゃん

## 南国歌壇

国分川の流れ豊かに鴨の群れ　外山　金田初美
新春の陽浴びて羽の輝よう

暮れ方の駅の階段かけ上る　岡豊町　武樋信子
人影真昔の影を曳きつつ

ブラインドの間に浮かぶ紅葉は　浜改日　梅潮宮一平
見事な絵画ある如く見ゆ

一日に一回の散歩つづけむと　立田　北村幸江
元旦より決め冬神に誓ず

「お父ちゃん」と高らかに呼びて親は来たる　岡豊町　葛目治子
二十年ぶり伴侶と共に

## 南国俳壇

友と語る心の通ふ嬉しさよ　黒改田　田所千枝
乾杯で仲人やっと笑みを見せ　十市　八松久幸

冷え込んで一本杉の上の空　国府　公文政子
冬入日落つを見とどけ北へ行く　国府　知恵えい子
遺品として紅葉一枚友の墓　国府　小松ふみ
紙入れの気が大揺れ師走市　明見　木戸節
商店街聖樹の星は金の星　物部　山川邦子
宴会に鮫すくいや雪の宿　日章　佐竹悦実
垂直に梯子を立てて松手入　前浜　中村祭生
園庭の恐竜遊具落葉まふ　長岡　野島卓子
持ち寄りの忘年会や柿なます　下野田　清水弥生



# われらサークル仲間

## 童心にかえって

今回は長岡東部公民館で活動している「大正琴教室」におじゃましました。

◇　◇

昭和四十七年に公民館活動として始まった大正琴教室。長い歴史があるだけにメンバーは発足当時からのベテランから、始めて一年目の方まで、さまざま。「熱心に教えてくださり、声が抜群に素敵」と評判の岡崎素輪先生を中心に、男性一人を含む平均年齢約六十歳のメンバー十二人が、月一回の練習日を心待ちにしています。

岡崎素輪先生

昔懐かしい哀調を帯び、それと同時にどこか近代的な雰囲気を醸し出している大正琴の音色、その魅力に引かれて入会した方がほとんど。

練習曲は童謡から最近の歌謡曲までバラエティに富んでおり、岡崎先生が普通の楽譜を大正琴用に作りかえます。練習の際には、大正琴の音色に合わせ、みんな声を出して歌います。「家庭では出せないような声が出せて気持ちがいいですよ」とメンバーもにっこり。

毎月の会合までには、きちんと練習を積んできます。「まるで子供にかえったような気持ちで弾いています。和気あいあいとした雰囲気で、とても楽しいですよ」と皆さん、声をそろえて語ってくれました。

◇　◇

このコーナーでは、同じ趣味を持った方たちの楽しい活動風景を紹介しています。「私たちのサークルを取材してほしい」と思われる皆さん、ぜひご応募ください。

◪応募方法　サークルの代表者の氏名、住所、電話番号、活動場所、それに活動内容を葉書に明記

◪あて先　〒783南国市大埔甲二三〇一　南国市企画課広報統計係

## これはなんでしょう

親子のみかた 29

答えについての思い出などもお待ちしています。

◪しめきり　2月10日

◪あて先　〒783　南国市大埔甲二三〇一　南国市企画課　親子クイズ係

◪賞品　正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈

◪第10回親子クイズの答えは、羽子（羽根）でした。

第10回当選者発表（敬称略）（応募総数11通）

橋本真希（稲生）
中沢明子（里改田）
山田美由紀（大埔）
山本真希（立田）
小まつあつ子（大埔）

お便りの中から皆さんの思い出の一部をご紹介します。

◆はねつきをやりたいけれども羽根と羽子板がなくてできないのがとても残念です。

◆今はお正月にはねつきしている子供たちってみかけませんよね。寂しいものです。私たちが子供のときはよくしたのになあ。

◆小学校のころ、お正月の日に二、三回着物を着て、羽子板をいとこ同志で楽しくやりました。でも今は私も結婚をして、子供も十カ月の一人娘がいます。

娘が大きくなると、お正月には羽子板をするようになるので、その日が待ちどうしいです。

◆お正月は着物を着、近所の友だちと羽子板で遊びましたのも昔話になりました。今年の正月は孫が楽しそうに遊びました。

◆子供のときはねつきをして、負けてばかりで顔を真っ黒ぐぬられた思い出があります。

◆今テニスをやっていますが、小さいころにやったはねつきが少しは役に立っているのかな。